行政評価シート（事務事業評価）

評価年度	28年度

事業名	小学校スクールバス運行事業	担当課	教育課
細分化した事業名	小学校スクールバス運行事業		

1 計画（PLAN）：事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり
	政策	子どもが夢を持ち続けることができる教育の充実
	施策	学校教育の充実
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画（PLAN）：事務事業の概要

事業の目的	統合によって、通学距離が長くなった児童の登校及び下校及び、各小学校の校外活動時の児童輸送のため。
事業の手段	市有の韮崎北東小学校２台、韮崎北西小学校２台のスクールバスにより、該当児童を対象に送迎を実施。 韮崎北西小学校の祖母石地区においては、民間業者のバスを借り上げ、登下校の送迎を実施。 市有スクールバスにおいては、他の学校も含め、校外活動においても利用。
事業の対象	登下校においては、韮崎北東小学校及び韮崎北西小学校の児童。 校外活動においては、市内全小学校。

3 実施（DO）：投入費用及び従事職員の推移（インプット＝費用＋作業）

		25 年度	26 年度	27 年度
A 事業費	（千円）	１６，５４２	１７，２２４	１７，４２６
財源内訳	国・県支出金			
	その他（使用料・借入金ほか）			
	一般財源	１６，５４２	１７，２２４	１７，４２６
B 担当職員数（職員 E）	（人）	０．０２	０．０２	０．０２
C 人件費(平均人件費×E)	（千円）	１３０	１３６	１３５
D 総事業費(A+C)	（千円）	１６，６７２	１７，３６０	１７，５６１
主な事業費用の説明	市有スクールバス運行業務委託料・民間バスの借り上げ料・車両修繕費			

注）平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した 25 年度（6,491 円）,26 年度（6,794 千円）,27 年度（6,715 千円）を使用しています。

4 実施（DO）：事業を数字で分析（アウトプット＝事業量）

		指標名	指標の算出方法	実績値 25 年度	26 年度	27 年度
活動指標	1	利用児童数	韮崎北東小：８５人 韮崎北西小：１８６人	２６０	２６２	２７１
	2	運行数	（日）			２２４
	3	校外活動運行数	（台）	８８	９６	９３

妥当性		■ A 妥当である　□ B ほぼ妥当である　□ C 妥当でない
上記活動指標と妥当性の説明	1	通学にスクールバスを必要とする児童を輸送するため妥当である。
	2	学校の運営日にスクールバスを運行する必要があるため妥当である。
	3	市内小学校の校外活動において、通学に支障のない範囲で運行できているため妥当である。 民間バス借上げに比べ、安価なため可能な限り活用している。

5 評価（CHECK）： 事務事業評価 （アウトカム＝成果・効果）

		指標名	指標の算出方法	実績値		
				25 年度	26 年度	27 年度
成果指標もしくはまちづくり指標	1	無事故安全運行率	無事故運行日数／学校運営日（夏休み中のプール運営日含）	１００％	１００％	１００％
	2					
	3					

成 果		□ A 上がっている ■ B ほぼ上がっている □ C 上がっていない
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	スクールバスが必要な際、事故や遅延がなく運行されているので妥当である。
	2	
	3	

事務事業総合評価	□ A 期待以上に達成 ■ B 期待どおりに達成 □ C 期待以下の達成

6 改善（ACTION）：今後の事務事業の展開

今後の事業展開	□ 拡大（コストを集中的に投入する） ■ 一部改善（事務的な改善を実施する） □ 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要） □ 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する） □ 廃止（廃止の検討が必要）
事務事業の改善案	改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか）
	28 年度の改善計画（今後の事業展開説明）
	市有スクールバス４台は、小学校２校の登下校の際、必要なものである。 また、校外活動時においても、民間業者のバスを借り上げるよりもスクールバスを利用した方が、安価に利用できるため、積極的に活用したい。 ただ、４台のうち２台は、平成２年に購入した後２５年以上経過しており、修繕にも部品等の調達が困難となってきているうえに、エアコンも装備されていない。すでに、故障も多くなってきていることからも、小学生の安全な登下校が出来るよう、買い換え等検討の必要がある。
過去の改善経過	
課長所見	スクールバスの安全運行を図り、引き続き児童の安心安全な通学手段を確保していく。